auto sport 2026年8月号（毎月29日発売）2026年6月29日発売　第63巻第8号　通巻1622号

トヨタTR010 ル・マンを劇的制覇

RACE CAR マガジン オートスポーツ

auto sport

2026
8
AUG.
No.1622



［3号連続 特別付録］ 第3弾
2026 SUPER GT
GT500マシン
大判カード トヨタ編
#36 au TOM'S GR Supra

特集

なぜ日本人は勝てないのか？F1で

いつか夢を実現するために過去から学ぶ

多角検証





佐藤琢磨
早く、速くなるための〝ステップバック〟

小林可夢偉
「脱メーカー」の必要性

角田裕毅
［欧州視点］シートを失った理由「未完の背景」

松下信治
福住仁嶺
牧野任祐
いま思えば足りなかった「コーチング」

日本のサーキット舗装は「至高」を育まない
岩佐歩夢×小池智彦 エンジニア
日欧モータースポーツ異文化論

ル・マン24時間 レース分析
BMW、キャデラックになくてトヨタにあったもの

ネクスト・フォーミュラ
『JNFP-1』発進準備完了

2026/27年 フォーミュラE 先取り情報
GEN4車両 開発の要点

GR86/BRZ Cup シーズン中間展望



BRIDE
https://brideseats.com

自由自在に攻められるバケットシートの極意

トップドライバーの正論

モータースポーツ用のフルバケットシートを供給し、ドライバーの活躍を支えているブリッド。各カテゴリーに求められる性能要件を徹底的に研究し、法規をクリアした製品を次々とリリース。品質に対するエントラントの評価は高く、数多くのトップドライバーがブリッドを選んでいる。

熾烈を極める今年のGR86／BRZカップにおいてもそれは例外ではなく、昨年のチャンピオン、堤優威を筆頭に、多くのドライバーがブリッドを使用。第2戦にはスーパーGTのGT500とスーパーフォーミュラにステップアップした小林利徠斗（Nine WITH ARN RACING）が出場しており、小林の199号車GR86にはブリッドのベストセラーモデル「ZETA IV」（ジータ4）が装着されていた。小林と言えば、身長160㎝の小柄な体格が特徴。ブリッドとの相性はどんなものだろうか？

「前が見えないと走れないので、シートを前寄りにセットしてもらっています。ポジションが低すぎる問題がありましたが、今はどうにかこうにかして走れています」（小林）

ジータ4は日本人の平均身長、170㎝前後を想定して設計されたモデル。いろいろな体格にフィットすることが支持を集める理由で、それは小林のコメントからも分かる。しかし、市販品のフルバケットシートに不満を感じることは本当にないのだろうか？

「他のカテゴリーで使っているシートと比べても不満を感じることはないですね。体を前に出しているので、シフトチェンジがしづらくなる心配がありましたが、問題はありません」（同）

トップカテゴリーで戦う小林ならではの正論。不満がないということは、ブリッドに対する彼なりのほめ言葉だ。小林は久しぶりの実戦ながら、予選3位に入り、天性のスピードを披露。表彰台の中央に登る日は近い。

また、第2戦で歓喜の初優勝を遂げた清水英志郎（K-one Racing Team）にも話を聞いた。清水の2号車GR86には、昨年からブリッドの「XERO」シリーズの最高峰「XERO RS PLUS」（ゼロアールエスプラス）が装着されていたが、ブリッドの高瀬嶺生社長のアドバイスもあり、オフシーズン中にポジションを見直したという。

「『君は細身だから見直したほうがいい』とアドバイスをいただき、ブリッドの工場に2号車を持ち込み、シートポジションだけではなく、ステアリングやシフトレバーの距離感もセットで調整してもらいました」（清水英志郎）

清水がリクエストしたのがシートの角度。少し寝かせるのが清水の好みだが、目線が下がることを嫌い、角度をつけつつ、目線は上がるようにフィッティングを調整した。

「作業後、シートと体の間にあったたくさんのすき間が埋まっていることに気づきました。体が触れる部分が増え、クルマの動きを感じるレベルがワンランク上がりました。シートの角度と目線のいいところどりができました」（同）

清水は第2戦で予選4位からスタートし、5周目に松井孝允、8周目に菅波冬悟を抜きトップへ。狭くて短いSUGOのコースでオーバーテイクを連続して成功させ、初優勝を記録した。工場で調整したシートの微妙な角度とコクピットからの目線がアドバンテージになったのは間違いない。

今回取材した第2戦では、ブリッドサポートドライバーの清水、堤、箕輪卓也が表彰台を独占。4位の高橋知己、6位の松井もブリッドユーザーだった。ブリッドはサプライヤーの枠を飛び越え、勝利のためのツールとなったと言ったら言い過ぎだろうか。

GR86／BRZカップで勝利を狙う挑戦者にとって、ブリッドは欠かすことのできない選択肢のひとつ。トップドライバーがブリッドに一目置いている理由はまさにそれだ。



昨年の第6戦以来の参戦となった小林。忙しいスケジュールの合間をぬっての出場だが、予選で上位につけるなど、ナンバー付きの市販車も乗りこなしている。



大きくトロフィーを掲げる清水。堤、箕輪もブリッドを使用しており、記念すべき表彰台となった。ブリッドを使用しているドライバーは数多く、左の表以外にも服部尚貴や佐々木雅弘などが使用。

主なブリッド使用ドライバー

清水英志郎	松井孝允
堤 優威	小林利徠斗
箕輪卓也	青木孝行
高橋知己	冨林勇佑　他



ファンゾーンではブリッドのシートを展示。性能と安全の啓蒙活動を行なっていた。ジャパンブランドの代表格として、リーダーシップを発揮している。



小林のシートはZETA IV。クッションのチューニングはせず、市販品のままで乗っている。160㎝の小柄な体格に合わせ、前寄りにセットしている。

ナショナルクラス JR3優勝　ヤリス



小川剛／山本祐也



WRCフォーラムエイト・ラリージャパン2026

ブリッドカラーの2台がクラス優勝を達成

5月に行なわれたラリージャパンのナショナルクラスにブリッドカラーのGRヤリスとヤリスが出場。愛知県と岐阜県にまたがる合計20本のスペシャルステージ（SS）を走りきり、2台ともに優勝を飾った。どちらもXERO RS PLUSが装着されており、ラリーフィールドでも性能の高さを証明。ブリッドを使用するK-one Racing Teamの86（37号車）もJR2で優勝しており、ブリッドにとって3クラス制覇となった。

ナショナルクラス JR1優勝　GRヤリス



佐々木康行／大塚祐樹





XERO RS PLUS

頭部を保護するヘッドガードを備えながらも、保安基準をクリアしたXERO RS PLUS。XEROシリーズの最高峰に位置し、堤や箕輪、高橋などが使っている。写真はグラデーションロゴ。

BRIDE
Make the sitting happy.

40号車 JR1/NAT 佐々木　康行（ささき　やすゆき）／大塚　祐樹（おおつか　ゆうき）





XERO RS PLUS
スーパーアラミド製ブラックシェル
グラデーションロゴ

BRIDE SPORT & RELAXING SEAT
BRIDE CO.,LTD.
ブリッド株式会社 BRIDEは、ブリッド株式会社の登録商標です。
〒476-0015 愛知県東海市東海町1丁目11番1号
電話.(052)689-2611 ファクス.(052)689-2612

ブリッド&エディルブの最新情報は、こちら!
https://brideseats.com

39号車 JR3/NAT 小川　剛（おがわ　つよし）／山本　祐也（やまもと　ゆうや）



WRC FORUM8 RALLY JAPAN2026
ナショナルクラス JR1／JR3 ブリッドヤリス W優勝！！

Congratulations!!